

月報

18号

発行所

青丘文庫

発行大韓 哲 曜 編集大 金 慶 浩

〒654 神戸市須磨区千歳町4丁目1-3

エバークリーンビル5F

TEL (078) 734-5989

「進迎への道」は遠い...

金不林裏作

我々九三〇年代の朝鮮民族解放運動を勉
強する者にとっては、進迎自若正への関心
が高くて当然のこと、研究会メンバーでグ
ループとして、その地を訪問したいと考え
るのは自然のなりゆきであらう。しかし、
日本人ならば可能であっても韓国籍の研究
者は非常に困難だという現状に直面し、国
家、国籍、民族問題の複雑さを、今更なが
り痛切に思い知らされている毎日である。
ともあれ、研究会としての団体訪問が今
年度は無理な状況となった。事後処理をど
ついたらよいのか、判断し兼ねている。日
本人だけで訪問しても気持はしっくりしな
い。
ところで、今年度の訪問の成否は別とし
て、中国東北地方での朝鮮民族の運動史を
勉強する場合、官憲資料や文献資料だけでは

そこに住む人々のハダにふれた研究はむずかしい、とだれで
も指摘するが、とりわけこのハダの部内でいくつかの私の関
心事をあげれば次のようなものである。

(1) 東北地方の中で旧『向東地方』だけは「向東條約」と
いう日本政府の外交的力によって、朝鮮人にも土地所有権を
得ることができるようになったが、だとすれば中国側からす
れば、朝鮮人は日本国家の威を背景に侵入してくる尖兵だと
認識されて当然で、ここに民族的対立は必然的に起きざるを
えない、当時、この事実を朝鮮人はいかに考え、いかに中国
人と対処し、いかなる思いで生活してきたのか。(2) 『満州
国』成立以後、いくつ民族平等が叫ばれたにせよ、実際には
日本人、朝鮮人、中国人の順に優劣がランクづけられ、多く
の朝鮮人が「新日本人」として軍隊、警察、官僚の末端に採
用されていったが、この三つの民族間の実際の関係はいかな
るもので、また「新日本人」としての朝鮮人達の立場や、思
いはいかなるものであったのか、そして日帝敗戦直後にこの
問題がいかに再浮上したのか。(3) 朝鮮解放——北朝鮮の地
上樂園の建設（その時中国は、また最も混乱期）にもかかわ

らず、日本と異なり、何故多くの朝鮮人がそのまま残留したの、その要因や祖国への思い、(4) それにもみかわらず、朝鮮戦争時には犠牲的精神で北朝鮮と支援したといわれるがその実態や思い、等々、文字や資料ではほとんど表われぬいその地の人々の思いを知らずして、歴史の真髓にせまることはできないであらう。勿論、これらはそこに生きる人々の生死に直結する内容を秘めた事柄で、一回や二回後度の訪向者にその真相を語り、理解させることは困難であらう、むしろ聞いてはならない事柄、話してはならない事柄でもあらうか。それでも知っていく努力は積み重ねなければならぬ。またこれらの事柄は、將來の在日朝鮮人のあり方を考える上でも二つの素材を提供するものだともいえ、これらも含めての遠い道のり、延迎行がいつの日に実現するであらうか、そして、互いに丸裸になれて、自らの生きざまを互いに語り合える日がいっそう来るのであらうか。そのための準備を怠ってはならないと、最近痛切に感じている毎日である。

★

研究報告 西谷氏

在日朝鮮人運動史研究会関西支部創立会第一回(一九三六年八月一日)

報告者 谷合佳代子氏

テーマ 日本の労働組合と朝鮮人労働者——一九三〇年、三

一年、大阪——

在日労総が全協(日本労働組合全国協議会)への解消(一九三〇年)を行ない、全協下で朝鮮人労働者が重要な闘いを担ったことは拙論「一九三〇年代在日朝鮮人労働者のたたかい」(在日朝鮮人史研究「一五号所収」)で述べたが、在日労総の組合員は全協が全協に加盟したわけではなく、むしろ総同盟(日本労働総同盟)や総連合(日本労働組合総連合会)などの合法改良主義組合へと流れた者の方が多かった。だが、系統的資料が存在せず、ともすれば日本人の運動の中に埋没してしまう為、これらの組合中の朝鮮人労働者の運動はこれまで掘りおこされたことがなかった。今回、菅見の限りで朝鮮人が関係していることを確認できた大阪府下の労働争議を顕表にまとめ、全体の傾向と分析し、特徴的な争議を四つ例示した。

へ全体の傾向へ

大阪での労働争議は、その半数近くを全労(全国労働組合同盟)という合法在日組合が指導している為、朝鮮人労働者の関与した争議

の場合も、全労が関係団体となっていることが多い。そして、組合員となつて日常的に活動しているのは少なく、ほとんどの争議がいわゆる「持ちこた争議」であり、組合にかけこんで援護を頼むといふのが一般的な例である。また、関西労働組合総連盟化学労働組合と縮師(日本労働組合総評議会)大阪化学労働組合が関与する例がいくつか見られるが、この二つの組合はどちらも、役員、組合員ともほとんど朝鮮人である。

そして、全協以外の組合が指導した争議が「かう弁」に売りわた、とは一概に言いがたく、日本人であろうと朝鮮人であろうと、世界大恐慌期の労働者の闘いは、失業の恐怖にさらされたせつぱつたものであり、しばしば「テロ」「暴動」と伴っている。したがって、合法労組の争議でも労働者は果敢に創意工夫をこらして闘った。ただ、その場合に検束されて、新聞に名前が載ったりするのは朝鮮人が目立っている。

大阪での二年間の工場争議を見る限り、朝鮮人労働者の闘いは一つの型にはめて捉えることはできないと思われれる。大阪現が「般落つて、日中戦争が本格化する時期ごろまでひき続き検証を行った上で、改めて、朝鮮人労働者のたたかいの全体像を明らかにしたい。

◆ 朝鮮民族運動史研究(第五七回) 創会(86年5月18日)

報告者

金 靜美氏

テーマ 日本軍の向島侵入(一九三〇年十月)以降の朝鮮民衆の連帯について——(天四鉄道へ吉会線の部へ建設反対闘争を中心に——

一九三〇年代と三〇年代の中国東北部における朝鮮人と中国人の対立を、現在においても強調する一部の研究があるが、これは日本がつくりあげた「対立」ではなかったか。中国人地主が朝鮮人小作、中国官吏が朝鮮人住民の対立は部分的にはあったが、中国人民衆と朝鮮人民衆との基軸的な関係は——特に三二運動と五・四運動のちは——生活の場と反日闘争における連帯であったのではないか。今回の報告は、以上のことも標題に近づく検討しようとしたものである。

一九三〇年十月の日本軍の向島侵入の際、「此の機会に於て吉会鉄道ノ促進ヲ——吉会鉄道ヲ完成スルハ経済上日支西國ノ共進ヲ齎ラス所以ノミナラス交通ノ完備ハ朝鮮人跳梁ヲ防圧シ得ヘキ——」という意見が表されていた。中国の吉林と朝鮮の会寧と結ぶ鉄道の建設は、中国、朝鮮と経済的、軍事的に支配しようとする日本にとって重

要旨意味をもつていたのである。

朝鮮獨立運動の基盤をおこそうとする日本軍の「三光作戦」に対して、吉林、安東、奉天、北京、天津、上海などの各地で学生を中心とする民衆が撤兵を要求する運動をすすめていった。

一九二二年、吉会線の一部である地坊―龍井間の輕便鐵道工事が天四輕便鐵道公司(中国と日本の合弁)によってすすめられたが、沿線地域の住民は工事妨害をするなど、鐵道建設に反対した。続いて、一九二五年、一九二八年にも、天四輕便鐵道(銀、銅を運び出すために天室山から四棚江までの中国側地点である地方まで、輕便鐵道を通すことを目的としていたが、結局は老頭海―天室山間は着工されなかった)については吉会鐵道の延長工事などに、沿線各民衆人民が反対闘争を展開した。このたにかつは、一九二〇年一月と一九二三年五月の日本軍の自衛侵入に対する、中国人と朝鮮人の連帯した反日闘争の経験を受けて、かつその闘争のながりのなかでくりやられた、と考えられる。

最近の中国での研究は「天四路は、朝鮮の会軍に接助する、日本帝國主義が延辺に侵入するための道である」として、延辺の「各民族学生和革命諸衆」が天四輕便鐵道建設反対闘争を行なった、としている。また、一九三〇年の五、三の峰起のときにも、天四輕便鐵道の破壊が試みられてゐる。(引用資料はレジュメ参照)

★ 次回案内

① 在日朝鮮人運動史研究会西部会(第八三回)例会

日時 一九八六年七月三日月午後二時

場所 青丘文庫

テーマ 「外國登録事務における在日朝鮮人の国籍条項の記載について」 報告者 金英蓮氏

② 朝鮮民族運動史研究(第八〇回)例会

日時 一九八六年七月二日月午後三時

場所 青丘文庫

テーマ 解放朝鮮の政治情勢―保甲勢力の台頭―

報告者 木下景珉氏

★ お知らせ

① 青丘文庫休館について

当文庫は八月に須磨寺のメジンド・青丘に移転することに決まりました。その後転準備のため、来る一九八六年七月二〇日から八月末日まで休館致します。

② 朝鮮民族運動史研究会について 朝鮮民族運動史研究会(三三)が日本中に発行されますが、四号の準備と研究会の今後の活動の連絡等について話し合いしたいと思いますので来る七月二九日の例会にはぜひご参加下さるようお願いいたします。

★新著圖書目録

- 朝鮮後期の政治と軍閥変遷 (韓國叢書(53)) 李承鎮著 11号 韓國研究 85・12・A5・三三一頁
- 韓國近代文學研究 西江大人文科學研究所編 11号 西江大學出版部 81・7・A5・三〇五頁
- 月印歌謠 11号 石岡 81・3・A5・三九頁
- 「魏志」東夷伝への構造 孫米健著 東京 大和書房 86・2・A5・二〇六頁
- 天皇制國家と神話「靖國」思索と叩い 戸科政博編著 東京 日本基督教團出版局 82・2・A5・三三一頁
- 韓國近代教育史(一八五〇—一九四五) 孫仁鏞著 11号 延世大學出版部 71・6・A5・三四二頁
- 神社行政・宗教行政・自給行政 児玉九一著 東京 常盤書房 34・2・A5・三四二頁
- 刀シブにおけるギリスト教比較年表 國際基督教大學研究所編 東京 創文社 84・3・B5・一八一頁
- 日韓ギリスト教關係資料 小川圭治他編著 東京 新教出版社 84・5・A5・五五九頁

- 近代日本の思想行動と宗教統制 赤沢史朗著 東京 教創書房 85・12・A5・五三四頁
- 戦時下のギリスト教の抵抗と挫折 金田隆一著 東京 新教出版社 79・8・A5・二八〇頁
- 韓國圖書館史研究 白麟編 11号 韓國圖書協会 82・4・A5・二八頁
- 韓國學 33輯 韓國學研究所編集発行 85・12・B5
- 歴史學報 108輯 歴史學會編集発行 85・12・A5・三〇五頁
- 人文研究 74号 嶺南大人文科學研究所編 慶山 嶺南大學校出版部 84・12・A5
- 関西大學・人権問題研究要綱 関西大學人権問題研究所編集発行 八五・一二・A5・五四五頁
- 韓國史研究彙報 51輯 國史編纂委員會編 11号 同委員會発行 85・12・B5
- 韓國史研究彙報索引 編集発行 石岡
- 昭和國民読本 徳富猪一郎著 日日新聞社 39・A5・三〇三頁
- 朝鮮の政治 11号 朝鮮の政治研究會 86・B5

◆ 日本学 五輯 金澤輝編 什書 東国大学出版部 86

◆ 韓國史論 12, 13, 14輯 国史編纂委員会 什書 民族

文化社 85, 86 A 5

◆ 韓國史研究 50, 51合併号 韓國史研究会 什書 梨花

女子大学史学科 85, 12 A 5 三八七頁

◆ 韓國学報 42輯 金聖武編 什書 一志社 86, 3 A 5

◆ 歴史学報 108輯 歴史学会編集発行 什書 85, 12 A 5

◆ 人文学報 59号 京都大学文学部研究所編集発行 京都86

◆ 近代天皇制への道程 田中彰著 吉川弘文館 79, 12 243頁

◆ 神聖国家日本とアジア—戦領下の支日原像— 鈴木耕夫

編著 勁草書房 84, 12 A 5 二七二頁

◆ 戦時下抵抗の研究 1, 2, 3 同人社大・キリスト教社会問題研

究所編 勁草書房 18, 12 A 5 一八二頁

◆ 朝鮮関係資料目録 3 朝鮮文庫補遺版

国会図書館 83, 85 三三四頁 国立国会図書館蔵

◆ 朝鮮統治官報 四一〜五〇巻 什書 亜細亞文化社

◆ 多文化教育の比較研究、教育における文化の同化と多文化

小林捷也編 福岡 九州大学出版部 85, 12 A 5 三六二頁

◆ 李朝の絵画 大和文華館編集発行 86, 12 A 5 一九九頁

◆ 単一民族社会の神話と現実—大沼保昭編— 東信堂 東京

◆ 朝鮮を知る事典 伊藤亜人他監修 平凡社 86, 12 A 5 三三三頁

◆ 朝鮮語大事典 上下二巻 大阪外大朝鮮語研究室編 角川書

店 86, 12 B 5 二七二五頁

◆ 在日韓国・朝鮮人と人権 大沼保昭編 有斐閣 86, 12 B 5 二二頁

◆ 海外と韓国 86, 12 B 5 四頁 明成社外社刊

◆ 慶北史学 八輯 慶北大学史学科・大邱慶北史学会 85, 12 A 5

◆ 東方学志 49輯 国学研究院編 什書 近世大学出版部 85, 12 A 5

◆ 韓国文化 韓国文化研究所編 什書 大学出版部 85, 12 A 5 二四四頁

◆ 大正大政スラム 形原薫他編 新評論 86, 12 A 5 二九二頁

◆ 清州島坐俗の研究 玄居駿著 第二書房 85, 12 A 5 五九二頁

◆ 目で見る李朝史 佐藤今朝大編 国書刊行会 86, 12 A 5 二二頁

◆ 韓国長老教会史(三) 張喜根著 釜山 亜成出版部 86, 12 A 5

◆ 炭坑の子と学校飯屋から「筑豊の子ととも」まで 林正登著

福岡 葦華書房 83, 11, 12 A 5 三一八頁

◆ 神社参拝外—韓国長老会より— 介梨川 研究 崔在連

著 什書 近世大学出版部 神学大学院 73, 12 B 5 一七九頁